

根拠を明確にして考え、表現する力を育てる社会科指導の工夫

— 資料を有効活用したノートづくりを通して —

社会科班 宮崎 進也(小学校教諭)

表現力を育てるノートづくりの三つの柱

- ◆資料提示による本時の課題設定
- ◆資料・記号を用いた学習内容や思考過程の可視化
- ◆1時間1見開きを使用し、5項目で構成することが基本



【児童の実態】

調べたことや考えたことを表現する力が不十分

【教師の願い】

根拠を明確にして考えて、文章で表現できるようになってほしい

授業実践・ノートの一例
単元「火事から人びとをどう守るの」

①めあて

②資料

ゲスト
ティーチャー
の活用



地域の消防団員

〈 資料提示による本時の課題設定 〉

驚きや疑問から課題意識を持つ

消防団？消防士ではないの？

なぜ消防士と同じような仕事をしているの？

どうして消防団があるの？

③調べたこと・分かったこと

⑤学習のまとめ

〈 学習内容や思考過程の可視化 〉

- ◆記号 ① ←(分かった！気付いた！)
- ② ←(えっ、本当？なんでだろう？)
- ③ ←(いい考えだなあ)

◆資料 提示資料と同じ写真・図をノートに貼付

④分かったことを
もとに考えたこと

資料や記号が、調べたことや考えたことを表現するための根拠や理由になるので、自分なりの見方・考え方を持って記述できるようになる。

成果

- 資料提示による本時の課題設定
→ 資料により、児童の課題意識を引き出したり、思考・表現活動を行う際の視点を与えたりすることができた。
- 資料・記号を用いた学習内容や思考過程の可視化
→ 児童が事実(調べたこと)と自分の考え(考えたこと)を区別する上で有効であった。
- 資料を有効活用した5項目・1見開きのノートづくり
→ 児童は学習の見通しを持てるようになった。また、資料や記号をもとに根拠を明確にして考えることができようになり、調べたことや考えたことを表現する力が育った。

課題

- 新たな気付きや別の視点を持たせたり、それを表現に反映させたりするためには、グループ活動を取り入れるなど学習形態を工夫する必要がある。